

田中誠一氏の功績概要

田中誠一氏は、昭和43年、北カリフォルニアで最大級の祭りである北加桜祭りにおいて和太鼓のソロ演奏を行ったことをきっかけに、サンフランシスコで和太鼓同好会を発足させ、また同年全米で初の太鼓道場を開設する等45年以上に亘り、一貫して米国を中心に日本の伝統楽器である和太鼓の演奏と指導を通じて、その魅力を伝える活動を行ってきており、以て日米文化の架け橋の役割を担い、全米における和太鼓の地位の確立、日本文化の普及と発展、対日理解の促進に貢献してきた。

田中氏は、米国に本格的な和太鼓グループを設立した最初のパイオニアであり、サンフランシスコ・ベイエリアのみならず、全米においても名高い和太鼓奏者・芸術者の一人として、日系コミュニティは勿論のこと、和太鼓を学ぶ一般米国人の間でも「和太鼓の父」としてその名声は高い。この点、田中氏は、全米における太鼓指導者としては第一人者である。現在でも、約200人へ自らが指導を行っており、北米には約400近くの和太鼓の団体があるが、そこで活躍する人のほとんどが田中氏の門下生であり、これまでの45年の活動を通じて1万5千人以上が同人の下で太鼓を習い、手ほどきを受けた。

更に、約45年に亘り、サンフランシスコ・ベイエリアを中心とした、全米や米国外における和太鼓の紹介・普及活動を行うことを通じて、一般米国人に対し日本の伝統文化の魅力を紹介することはもとより、世代が進むにつれて、日本人としてのアイデンティティが薄れやすい日系人社会において右アイデンティティの保持に多大な貢献をしている。北カリフォルニア州ベイエリアにおける主要日本文化関連行事に同氏および同氏が率いる太鼓グループの存在は欠かせないものとなっている。

田中氏は、サンフランシスコ太鼓道場総長として、また、アメリカ太鼓連盟の会長として、全米における太鼓演奏家・指導者の精神的支柱としての役割もあり、米国における日米文化交流への功績は大変大きい。

(了)